

地歴公民科（世界史B）学習指導案

指導日時 平成30年12月18日(火) 第5校時
学習者 3学年進学コース選択者(男子5人, 女子1人 計6人)
指導場所 鹿児島県立古仁屋高等学校 3年2組教室
授業者 鹿児島県立古仁屋高等学校 教諭 米倉 秀和
使用教材 『高校世界史』(山川出版社)
『新世界史要点ノート』(啓隆社)
『グローバルワイド最新世界史図表』(第一学習社)
『世界史用語集』(山川出版社)
『世界史の窓』(<https://www.y-history.net/>)

1 単元名 アジア諸地域の動揺(第Ⅲ部第12章)(全5時間)

2 単元設定の理由

(1) 教材観

産業革命と市民革命を経て近代国家に変貌したヨーロッパ諸国が、多くのアジア諸国を従属させてゆく過程について学ぶ。また、明治維新を経た日本が本格的な高校世界史への登場を果たす単元でもある。したがって、わが国の歴史ひいては郷土の歴史を織り交ぜた世界史的視座に立って考察することができるようにする。

(2) 生徒観

学習者は、進学コース生徒のうち世界史を選択した生徒である。人数が少なく互いに気心が知れているため、意見を出しやすい。世界史学習への関心が高い一方で、予習や復習をしっかりと行う習慣が定着しておらず、授業での学習内容が定着せず、単元全体を通した学力の定着につながっていない。

(3) 指導観

本授業では、一つ一つの用語を知識として定着させるだけでなく、一つの座標軸において比較考察することを通して「基軸となる問い」の解決を図り、その過程で対話や協働が行われ、学び合いの時間となるようにしている。また、本単元では、郷土の近代遺跡も学びの視座に導入し、世界史と郷土を結びつけることを通して、郷土に対する理解も深まるようにしていきたい。

3 「基軸となる問い」の設定と単元の目標

＜なぜ、アジア諸国は列強の従属的支配を受け、日本は独立を保つことができたのか。＞

(1) 単元の学習内容に深い関心を持ち、郷土の近代遺跡との関連についても主体的に考える。

【関心・意欲・態度】

(2) 基軸となる問いの解決にあたり、政治的、経済的な要因をそれぞれ提示し、相関図を作ることを通して、多面的・多角的に考察する。

【思考・判断・表現】

(3) 日本の近代化にはどのような特徴があったのか、アジア諸国と比較してどのような違いがあったのかについて、資料を基に言語活動を行いながら探る。

【資料活用の技能】

(4) アジアの大帝国であるオスマン帝国、ムガル帝国、清朝の自己崩壊と、それに乘じた列強の進出の歴史的な過程について、基本的な知識を身に付ける。

【知識・理解】

4 単元の評価基準と指導計画

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
列強によるアジア支配の歴史と、郷土の近代遺跡との関連について関心を持ち、意欲的に追究しようとしている。	列強によるアジア支配の歴史を、政治的視点、経済的視点から大観することを通して、多面的・多角的に考察している。	日本の近代化に関する資料から有用な情報を読み取り、アジア諸国の政治、経済を捉える際の判断材料として役立てている。	列強によるアジア支配の歴史的な過程について、基本的な知識を身に付けている。

(2) 単元の指導計画（全5時間）

時間	学習内容	評価の観点				学習課題及び目標
		関	思	技	知	
1	西アジアの変容		●		●	<p>「基軸となる問い」<なぜ、アジア諸国は列強の従属的支配を受け、日本は独立を保つことができたのか。></p> <p>オスマン帝国の解体が進んでいったのはなぜだろうか。</p> <p>○ 西アジアの変容の背景には、オスマン帝国解体についての基本的知識を理解し、政治的・経済的要因がどのように関係しているのかを考え、意見を出し合い、深い学びにつなげる。</p>
2	南アジア・東南アジアの植民地化		●		●	<p>イギリスは、どのようにして全インド支配を成し遂げたのか。</p> <p>○ インド、東南アジアの植民地化に関する基本的知識を理解し、ムガル帝国の自己崩壊と、イギリスによる経済的なインド支配について意見を出し合い、深い学びにつなげる。</p>
3	東アジアの激動（1）		●		●	<p>清朝は、なぜアヘン戦争と太平天国の乱を招いたのか。</p> <p>○ 清朝の動揺についての基本的知識を理解し、イギリスの自由貿易主義と清朝の近代化の失敗との関連性について意見を出し合い、深い学びにつなげる。</p>
4	東アジアの激動（2）	●			●	<p>日本では、どのような人々が近代化を主導したのか。</p> <p>○ 日本の近代化にはどのような特徴があったのか、アジア諸国と比べてどのような違いがあったのかについて資料を基に言語活動（読み取り、解釈、説明）を行いながら探るとともに、集成館事業について興味・関心を持つ。</p>
5	単元のまとめ（本時）	●	●			本時の指導案参照

5 本時の実際

(1) 本時の目標

【学習課題】

なぜ、多くのアジア諸国が列強の進出を許す一方で、日本は近代化を進めることができたのだろうか。

政治的、経済的な要因を提示し、相関図を作ることを通して、学習課題1の解決を図る。

【思考・判断・表現】

また、学習内容を深めることを通じて、郷土の近代遺跡への関心を深める。

【関心・意欲・態度】

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点及び「評価」
導入 (5分)	① 本時の学習活動の内容について確認を行う。 ② それぞれのグループで選んだ用語の基本的な内容について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価票を配布する。 用語カードを提示し、基本的な内容について発問する。
展開① (20分)	① 【学習課題】の確認を行う。(3分)	<ul style="list-style-type: none"> 【学習課題】を黒板の左上に示す。
	② 座標軸を用いて、多くのアジア諸国が従属国となっていく要因について考察する。1人につき1～2つの用語を、座標軸内に配置し、縦軸、横軸を意識しながら説明する。対話を通じて用語の比較を行い、配置を変えていく。(17分)	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に関して、「列強の進出を避けるにはどうすれば良かったのか」という問いかけを念頭に置くように支持する。 黒板上の座標軸への書き込み、対話・協働などのサポートをする。 <p>「座標軸を考慮して配置し、その理由を説明できているか。また、対話を通じて配置を見直すなどして、用語(歴史事象)についての理解を深めている。」</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

学習活動②について

上記のように、座標軸を考慮して配置し、その理由を説明する。また、対話を通じて配置を見直すなどして、用語(歴史事象)についての理解を深める。判断基準B

展開 ② (20分)	① 座標軸から作った相関図から、アジア諸地域が従属的支配を受けた要因を導きだし、それをもとに各グループで学習課題の課題解決案を作成する。(15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードを用いて課題解決案を作成させる。 <p>「相関図内から適用した用語を基に、接続詞を用いて説得力のある文章を作成できているか。」</p> <p style="text-align: right;">【思考・判断・表現】</p>
	<p>【学習課題に対する課題解決案】</p> <p>アジアの大帝国は、例えばインドの地方勢力抗争のように、自己崩壊をしていった。したがって欧米列強による経済的な支配を避けられなかった。一方、日本は急速な近代化をすすめ、琉球、台湾、朝鮮などを併合して急成長していった。なぜなら、明治新政府の強力な政治的統一の下で急激な近代化を進めたからである。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; display: inline-block;">判断基準B</p>	
	② 日本の近代化と奄美大島白糖工場との関連について学ぶ。(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の近代化の背景に集成館事業があったことを説明する。 ・古仁屋高等学校の白糖工場研究について紹介する。
終末 (5分)	① 授業の振り返りを行う。 ② 評価問題の評価ルーブリックを確認する。	<p>「授業への振り返りを通じて、単元の学習内容についての学習意欲を高められているか。」</p> <p style="text-align: right;">【関心・意欲・態度】</p>